文化関係者へのヒアリング概要

R2.3 ヒアリング対象者（順不同・敬称略）

氏名	役職等
内藤　守	風流堂　社長
皆美 佳邦	皆美 代表取締役社長
岩田 英作	島根県立大学人間文化学部長
内田 融	八雲会　常務理事（事務局長）
川島 芙美子	風土記を訪ねる会 代表
大隅 宏明	松江市総合文化センター「プラバホール」統括マネージャー・企画事業部長
山本 素久	NPO法人松江ツーリズム研究会　理事長
小幡 美香	鷺の湯温泉「竹葉」女将
藤岡 大拙	NPO法人出雲学研究所 理事長、松江歴史館　館長
中川 幾郎	帝塚山大学名誉教授

（令和2年3月現在）

対象者選定基準：文化活動関係者及び識者（委員推薦）

（1）松江の文化について

松江の文化について、具体的に出てきたものは、松江城、城下町、宍道湖が象徴的なものとして複数の方から挙げられた。松江城や城下町という歴史的資源と宍道湖という自然資源とが融合している点も触れられている。城下町に関連して、食材や和食の文化も出てきている。

また、「人」については、人の生き様や風土に育まれた人間性、人柄、風土とアイデンティティ形成といった点が述べられた。

芸術面では、音楽に関して、特に島根大学の特音課程から輩出された人材が松江の音楽文化の発展に寄与している点が指摘された。

具体的に象徴されるもの	□　松江城　□　宍道湖、水辺 □　城下町、堀　□　神魂神社 □　食文化、茶の湯
人	□　町社会、村社会で生きる人の生き様 □　誠実、堅実、丁寧な人柄 □　表面は地味だが内面に華やぎを持つ。物静かで奥ゆかしい。
音楽	□　島根大学特音課程から輩出された人材を中心とした地域の音楽活動

（2）松江の芸術文化や歴史文化における成果・課題・対策

成果の出ている取組みとして、玉造温泉街のまちづくり、松江市立女子高等学校の国際文化観光科の設置、子どもたちの地域学習が挙げられた。

課題としては、松江市に賦存する歴史文化の調査の必要性、それに基づく保存の必要性、その上での活用が指摘された。活用については、伝統ある家屋の保存と合わせた活用が述べられた。

学校教育における学力低下が非常に危惧されており、地域学習以前に基礎学力の習得が失われている点が心配されていた。また、芸術面についても、島根大学の特音課程が教育課程に移行したことにより、芸術面での衰退が懸念されている。

今後の対策としては、本物を守ること、松江のシンボリックなエリアで歴史文化の保存と活用を行うこと、匠の食文化を伝承すること、不昧公没後 200 年事業の継続・発展が挙げられた。

また、市民の文化活動について、自らの地域学習、学校教育の充実が指摘された。

成果の出ている取組み	□ 玉造温泉街のまちづくりで、民間を中心に行政がバックアップし、「めのうと神話」という本物の上に立って若い人たちが表現とビジネスを展開 □ 松江市立女子高等学校の国際文化観光科の設置 □ 松江歴史館での子どもたちの学習機会提供
課題	□ 歴史文化の調査の必要性と文化財保存 □ 伝統ある建物の保存と活用 □ 子どもたちの学力低下 □ 音楽活動の衰退への懸念
対策	□ 本物を提供 □ 松江大橋周辺など、シンボリックなエリアで保存と活用 □ 匠の食文化の伝承 □ 市民の地域学習の推進 □ 学校教育の充実

（3）松江市の芸術文化や歴史文化を活かしたまちづくり

まずは、「人づくり」を重視する意見が多く、学校教育や生涯にわたる学びの重要性が指摘された。

松江市における民間のすぐれた点として、文化的な底力があり、主体的に芸術活動が展開されてきたことが挙げられ、行政の評価としては、文化施設への投資が良いとの指摘があった。デメリットとしては、民間の活力不足との意見があった。

情報発信について、主として観光の面から、松江の優位性をきちんと伝えること、関心のない人たちへも届ける工夫などが提案された。

文化財の保存と活用についても、松江ならではの特性を活かし、その核となるところを集中的に取組むことが有効との意見が出された。

芸術文化・歴史文化を活かしたまちづくり	□ 人に根差した文化 □ 初等教育・中等教育の学校教育の充実 □ 地域への愛着を育てるためには、市民の学びが重要

	□　市民・民間の活動を行政が支援して育てることが必要 □　松江の文化を分かりやすく伝えることが重要 □　未指定文化財の調査や保存が求められる

（4）松江市の文化行政の条例制定及び計画策定にあたって

条例制定及び計画策定にあたっては、条例は松江市の文化行政の基本となるものであり、行政と市民との協働への期待が述べられた。また、それは人を育てることを重視するものであり、特に未来を担う子どもたちの参加も提案された。

条例制定及び計画策定にあたって	□　人づくり、人を育てる風土づくり □　行政と市民とが同じ目的をもち、ともに活動することが重要 □　他市町村や近隣との連携も視野に入れる □　市民の意見、特に次代を担う子どもたちが関わる機会づくり

（5）松江市の文化行政検討にあたって（中川郁男帝塚山大学名誉教授）

あれもこれも、というのは無理。松江市は何を特徴とし、何を求めるか。

歴史的文化資源については、第一に、きちんと「保存する」というまじめな努力が必須。そのうえで、第二に「活用」を考える。そして第三に、先端的な文化を「発信」する。

先端的な文化はアートかもしれないし、技術や産業の場合もある。例えば、富山県の高岡市はかつて鋳物（鉄、銅）の産業で栄えた町だが、現代では技術革新によって国際的な商品として展開されている。文化によって、外に向かって攻めていくときには従来のものを乗り越えることが必要であり、政治力が求められる。高岡では、町衆文化が根付いており、外部から文化を取り入れる風土がある。

政治家であるトップは限られた任期のある「消耗品」。政策を動かす「備品」としての公務員。それによる「財産」が市民。

文化政策には、歴史的価値を掘り下げたり、都市文化政策を行うことは「垂直的」に展開する。一方で、市民に平等に文化機会を届けるのは「水平的」に展開する。この二つを混同してはならない。

「地域文化」を、松江市内に賦存するものを指しているのであれば、まず、これが全部チェック（調査・把握）されているか。これを守り伝承するコミュニティの力を守ることが重要。それを支援するために、文化ホールや文化行政がある。地域文化についても、水平的展開として取り組むもの。

R2.6 ヒアリング対象者（順不同・敬称略）

氏名	役職等
安部 信一郎	安部榮四郎記念館 理事長
山本 一成	山本漆器店 代表取締役社長
井上 章	華道小原流 講師
河野 美知	神社ガールズ研究会 代表
浜田 真理子	シンガーソングライター
本間 亀二郎	まつえ若武者隊 隊長
石橋 淳一	佐陀神能保存会 会長
桑原 正樹	宍道湖漁業協同組合 参事
武田 いさき	堀川遊覧 船頭
安田 政男	島根県日本調理技能士会 会長

対象者選定基準：松江を代表する分野の活動実践者（委員提案）

（令和2年6月現在）

（1）松江市の文化について

松江市の文化的な特徴として、市民アンケートや前回ヒアリングと同様に松江城や宍道湖が挙げられた。

城下町の文化としてお茶をめぐる陶器、漆器、和菓子などの工芸品及び手仕事などの広がりと集積があることも述べられた。それぞれの分野の中ではさらに広がりがあり、漆器においては工程ごとに職人の技術があり、華道においては、素材を切り出す人、取引する人、活ける人と多種多様な担い手が一つの分野を支えており、その集積が松江にあることが明らかにされた。また、茶の湯文化にイメージされる格の高さの一方、民芸のような暮らしと共にある広がりといった文化の重層性も指摘されている。

また、小泉八雲が見出した妖怪や神話にまつわる「目に見えないもの」の豊かさも注目されている。「水」も重要なキーワードであり、人の穏やかさにつながるのでは、とのお話もあった。

城下町	□ 茶の湯 □ 各分野における分業	□ 工芸品（漆器、陶器） □ 手仕事、民芸
水	□ 宍道湖 □ 日本海	□ 堀川
目に見えないもの	□ 小泉八雲	□ 神話

（2）文化活動における特徴

伝統工芸、伝統文化の分野では、時代の変化に合わせた取組みが継続して行われている。安部榮四郎による民芸運動もその一つであり、技術とともに貴重な交友（ネットワーク）がもたらされている。漆器においても、その特徴を「技術」に見出し、現代のマーケットに合わせた商品開発への取組みが行われている。

歴史文化においては、神社ガールズ研究会やまつえ若武者隊、堀川遊覧船のように、ガイドとしての入り口を広く、やさしくしようという積極的な試みがある。これらの発信において、松江の特長を、爆発的、一過性のものではなく、多様な素材を丁寧に積み重ねることによって捉え、それを伝える活動が共通して見られた。

次代につなぐことも強く意識されており、松江城でのガイド、佐陀神能における伝承、宍道湖環境保全への教育活動、地域の食材と歴史に根差した調理の伝承など、各分野で意識的な取組みが行われている。

時代に沿って更新される伝統工芸	□ 技術に視点を置いて商品開発を行う八雲塗 □ 日本文化としての価値を高めた出雲民芸紙
歴史文化の発信	□ 入り口を広く、やさしく（神社ガールズ研究会、まつえ若武者隊、堀川遊覧船等） □ 時間をかけ、多様な素材を丁寧に積み重ねることによって生み出される松江らしさ
次代の育成	□ ガイドや環境教育、芸能を通した子どもたちへの伝承 □ 次代の担い手を育成（調理士）

（3）文化活動における課題と対策

伝統工芸の分野では、販路開拓と担い手の確保・育成が最大の課題である。これらの 2 点においては、自助努力だけでなく、連携と支援が求められている。

民俗芸能においても、担い手の確保・育成が課題である。これには子どもの頃からの経験・愛着の醸成とともに、地域社会における理解が求められ、特に企業・事業者が理解することによって担い手と継続性の確保が期待される。

アーティストの分野では、都市に比較して地元での発表機会が限られることや、東京経由でなければ評価されにくい点が課題として挙げられた。そうする中でも地域でのアーティスト育成は試みられつつある。

松江の文化については、それぞれ高く評価しており、特にそのポテンシャルの豊かさは多く認められている。その一方で、発信力と認知度の低さ、また表現の難しさ、地域全体への波及や皆で盛り上げる機運醸成に対する課題が指摘された。

伝統工芸	□ 販路開拓と商品開発	□ 担い手の確保・育成
伝統芸能	□ 担い手の確保・育成	□ 地域における理解促進
芸術	□ 発表の機会	□ アーティスト育成
神話・歴史（ガイド）	□ 発信力・認知度の向上 □ 地域への広がり・機運醸成	□ 表現の工夫

（4）松江市の文化に関する提案など

松江市の文化に関して、次のような提案も出された。

・伝統芸能において伝承にとどまらず、深く研究し、道具などの保存も各地域の博物館等での整理・保存。
・伝統工芸においては、観光と連携したクラフトツーリズム。
・何を残していくべきか、調査・精査。
・新しい建築物ではなく、これまでにあるものの価値を活かした活用。
・松江駅から松江城まで、ストーリーがつながるアクセスルート。
・松江の神社、松江藩、小泉八雲などと縁のある食の提供。
・歴史・伝統への入り口を広く、カジュアルに。子どもたちが関心をもって触れる機会の提供。

R2.6 ヒアリング対象者（順不同・敬称略）

氏名	役職等
中尾　禎仁	カニ小屋バル等運営者
FROGMAN	映像クリエイター等（観光大使）
まつもと　ゆきひろ	Ruby 開発者
藤間　信乃輔	日本舞踊家（武者行列コーディネーター）
佐野　史郎	俳優（文化夢大使）
ファビアン　クレッツ	元国際交流員（フランス）
パク　チヘ	〃　（韓国）
コ　セイケイ	〃　（中国）
アンソニー　ケリー	国際交流員（アイルランド）
ルーク　カルソン	〃　（アメリカ）
カク　シンゼン	〃　（中国）
アールティ　ダース	〃　（インド）
ムーラン　イザベル	〃　（フランス）

（令和2年6月現在）

対象者選定基準：他都市と比較できる方（委員提案）

（1）客観的な立場から見た松江について

・沢山の伝統文化芸術がある。
・都市のサイズ感が適当。
・都会的な部分がありながら、自然が豊富。
・古き伝統を守りながら、躊躇することなく新しいものを取り入れる気質。
・歴史文化が市民の誇りとなっていると思うが、市民が松江の歴史をよくわかっていないことに驚く。
・わざわざ出かけなくても、身近に文化環境が整っている。

（2）考えられる今後の取り組み

・まずは市民が松江についてもっとよく知ること。
・文化財や水辺等を活用する場合の規制緩和
・プログラミング教育の高度化。ネットリテラシーの底上げ
・ネットを通じた文化コンテンツの発信
・交通の利便性の向上